

## 27 唾液の臭いと性週期との関係に就いて

和洋女子大 川村 一男  
田口 秀子

著者等は、L. Farber により考案された Stinkometer を応用することにより、唾液の臭いに及ぼす種々なる因子を追及している。

この方法は物質中に含まれる処の揮発性還元物質が、アルカリ性過マンガン酸カリの消費量で以て測定される方法であるが、之により大部分の臭成分は総合的数値として合計され求められるもので、従来報告されている幾つかの臭い測定法に比して、測定者の主観及び個体能力差の影響が、結果に全く導入されない利点を有している。

唾液の性状は常に一定でなく種々の内的及び外的因子で変化され易いので、特定の条件で被験者の混合唾液を採取して臭いを測定することに務め、唾液臭気と之に影響を与える因子を追及しつつあるが、今回は性週期この関係について報告する。

まづ月経中の任意の1日に於ける唾液臭気と、月経終了後に於ける唾液臭気とを比較検討した処、月経期間中に於ける唾液臭気は、終了後のそれに比し高い傾向を示した。ついで月経期間中を通して測定すると共に、期間外の毎日について測定を試みたが、同様の結果を得た。

尚、排卵期間中の1日に於て、臭いの強くなることが認められたが(萩野式計算による)、基礎体温を測定することにより吟味を試みた処、判然と関係づけることは現在迄のところ出来なかった。